

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホームしらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の希望、要望に耳を傾け、各々のペースを大切にしている。 また、母体である医療法人博愛会との連携を密にとり、利用者様の健康管理が十分に出来ており、安心して生活していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前の道路は高浜観光港に繋がる道路で比較的交通量は多い。一歩事業所の敷地に入ると、リビングの大型の掃き出し窓から続くテラスからは、木々の緑や利用者と共に育てている畑を眺めることができ、利用者にとって癒しの空間となっている。利用者は日中には解放的なリビングでジグソーパズルをするなど思い思いのを楽しんでおり、ゆったりとした時間が流れている。母体法人は医療法人で、利用者の心身の健康面は、いつでも医師や看護師と相談できる環境にあり、安心して生活を送ることができる体制が整っている。今年から管理者が交代し、「自分らしく」という理念のもと、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、心機一転、職員が一致団結しケアの質の向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしらさぎ

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 渡邊 光子

評価完了日 25年9月3日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自分らしくを理念として掲げている。利用者がその人らしく暮らせるよう、毎日の申し送りやカンファレンスで話あいケアにつなげている。個別支援に力を入れており、職員の気付きがあれば、報告してもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 「自分らしく」生活を送れるように、利用者が望むことは何かということ職員は常に考えながら、ケアに取り組んでいる。日々の生活の中で気づいたことは申し送りノート等に記録し、職員間で共有するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くのコンビニやスーパーを毎日利用させていただいている。近隣の幼稚園との交流や地域の夏祭りに参加させていただいている。地域の一員として市民大清掃に参加して地域住民との交流を行なっている。回覧板をまわしていただいております、ゴミ置き場の清掃当番は責任をもっておこなっている、気持ちのよい挨拶を心がけている。</p> <p>(外部評価) 自治会の回覧板などで情報を得ながら、地域行事には積極的に参加するように取り組んだ結果、地域住民から必ず行事の開催時には事前に参加を呼びかけてもらう関係づくりができ、交流をしている。また、日常的な交流を大切にするため、近隣住民から梅のおすそ分けがあれば、加工してジャムを作りお返しをするなど工夫をしながら、継続した関係作りに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で時折認知症を理解していただけるように説明させていただいている。又近隣の方が車椅子より転落された時当グループホーム職員2名がかけつけ対応した事もあり 困っていることはいつでも相談してほしいと思う又 お役にたきたいと思っています。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議では事業所の取り組みを報告したり意見や希望等を聞かせていただいている認知症もいろいろ型がありよく分からないと言う意見ができれば 次回にミニ勉強会をして卒直な意見をいただいている。議事録は職員が回覧して理解を深めるとともに サービスの質の向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、老人連合会長、民生委員、市社協職員、市担当者、訪問看護ステーションの看護師等の参加を得て開催している。会議では、事業所の報告や意見交換をしている。参加者から出された意見は、必ず検討してサービス向上に繋がるよう努めている。会議への欠席者があり、家族の参加も少ないため、今後は、活発な意見交換が行える会議となるよう検討している。</p>	<p>運営推進会議への参加者が少なく、呼びかけても欠席するなど、地域との交流の深まりに制限があるように感じられる。今後は、行事や勉強会、災害対策などテーマを設け会議と一緒に開催する等、柔軟に家族や地域住民の参加を呼びかけ、多方面からの参加協力や意見が得られることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度 運営推進会議を通して協力関係を築いている。事務所の考え方や運営、現場の事情等を報告し意見をいただいている。介護保険についても分からないことは相談して、協力を得ている。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。介護保険に関することや困難事例など、運営や個別ケースについて不明な点があれば、市担当者に電話などで相談できる関係を築いている。地域包括支援センターとは現在関わりが減っているが、困難ケースなど状況に応じて連携を図り、関係強化に努めたいと考えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の人権を守るという基本姿勢を忘れないように年1回の勉強会と毎日の申し送り時等に折にふれ全職員が共通認識をもてるように取り組んでいる。家族から要望があった場合も説明して納得していただいている。</p> <p>(外部評価) 日々のケアや申し送り時に、管理者はどのような行為が身体拘束になるのか確認しながら職員に伝え、共有して身体拘束をしないケアに努めている。年1回身体拘束の勉強会の開催のほかに、職員が身体拘束の不快さを体験することで、利用者の気持ちを考える機会を設定して話し合うことを検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全身の皮膚の観察等は入浴時に行なっている。又毎日の申し送り時に内出血等はないか、言葉の暴力はないか 接遇等は1人1人の職員に日頃の業務の中で指導をおこなっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前後見人制度を利用されていた方が入所されておられ職員は理解できている。新しい職員にも資料を回覧しており 分からない部分は いつでも 指導できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 相談見学の折概略を説明し、入所時あらためて詳細を説明 理解 納得していただいた上 契約を取り交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来設時には必ず利用者の状況報告や家族の要望等 意見を伺い いただいた情報を話合って改善に取り組んでいる又利用者本人にも意見 要望等をお聴きしてサービスの質の確保に 努めている。	
			(外部評価) 事業所はいつでも家族の訪問を受け入れている。行事や訪問時に家族が意見を言いやすいよう、職員全員が話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、訪問が少ない家族に対しては、手紙や電話などで利用者の様子を伝え、家族から意見が言いやすいような関係づくりに努めている。	家族の訪問時や行事の時に意見を聞く機会はあるが、家族会等の設置はなく、積極的な意見交換の機会は少なく感じる。家族が集まりやすい行事を開催するなど家族と積極的な関わりを持てる機会を設け、意見や要望を言いやすい環境となることを望みたい。また、職員と家族とのより良い関係を築き、出された意見が利用者のサービス向上に反映されることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員1人1人に直接意見を聞き 個人名を上げず経営者サイドに伝えている。常に職員の働く意欲の向上を考えている。又定期的にミーティングを行ない 職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに 努めています。	
			(外部評価) 管理者は職員と一緒に介護現場で利用者のケアを行っており、職員がいつでも意見や要望が言いやすい環境となっている。また、個別ケアについて、母体法人の看護師にいつでも相談することができ、職員は安心して利用者のケアに取り組むことができる。定期的に実技指導者が来訪するなど研修も充実させ、職員の自信に繋がるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員の勤務状況や実績を把握している。希望休は 出来る限り とれるように 他の職員と交代したりして 勤務交代をしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内等の資料は回覧し出来るだけ参加するように呼びかけている。サービスの質の同一化をはかる為接遇から介護にいたるまで知識を身につけていくことを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者より他のGHとの交流を進めるよう指示されている。GH連絡協議会において 同業者との ネットワーク づくりに 努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人、家族より 困っている事不安な事、要望など聞き取り 本人様が入所後スムーズに施設での生活に馴染んでいただけるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人、家族より 困っている事不安な事、要望など聞かせていただき、可能な限り対応している 出来ない事に関しては その理由を説明して理解して いただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の状況を確認し本人や家族の必要としている支援を見極めるよう努めている。GH入所の対象で無い場合や入所困難な場合は適切と思われる他のサービスなどの情報提供を行なっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援しているという目線でなく、同じ場所で生活をする人という意識を持って関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時に状況報告し相談や意見交換を行なっている。利用者と家族の関係性にも留意している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には近況報告を行なうと共に 家族様の支援を得る参りや法事など出かけられるように支援している。又馴染みの美容室の 送り迎え等職員がおこなっている。 (外部評価) 利用者の馴染みの場所や関係等を家族から話を聞いたり、利用者の日常の会話から汲み取ったりしながら把握するよう努めている。開設当初から入居している利用者は重度化し、入居時の関係性を継続することが難しくなっているが、家族の協力を得ながら関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1階と2階を互いに行ったり 来たりの交流のある利用者さんもある。余暇の時間に一諸に歌を歌ったり話をしたり利用者さん同士かかわれるよう間に入り支援している。不穏な徴候をいち早く察知しトラブルにならないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去の際は退去後の生活がスムーズに行なえるように情報提供を行なっている。退去後も必要に応じ相談にのっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の関わりの中で表情や言動などから把握するように努めている。ご家族からも情報を頂き 知り得た情報を 支援経過記録に書き込み 職員で共有している。	
			(外部評価) 利用者の思いや希望について、日常会話の中から汲み取り把握するように努めている。言葉にできない思いは、入浴介助時や夜間など利用者と職員が1対1となる時に話をすることもあり、リラックスしている時間を活用し傾聴し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント及び入居後の生活の中で 折に触れ ご本人ご家族からうかがっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の生活リズムで出きる事 できない事 心身状態等について 職員間で 情報交換 意見交換して把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人家族より 要望を聞き 介護計画に反映させている。申し送り時等職員より状態等の変化の報告を受け 専門家と話し合いその結果にもとずき作成している。	
			(外部評価) 利用者の現状に即したケアをしやすい具体的な計画になるように、介護支援専門員が利用者や家族の意向や職員の意見など確認しながら、医者や看護師の意見を参考にして介護計画を作成している。利用者一人ひとりの記録ファイルを利用し、職員が介護計画を把握できるように工夫することで、利用者に合った暮らしが送れるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別の経過記録に日びの状態を記録している。状況変化やケアの変更等は、申し送り等にも 記入し職員間で情報共有し実践につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の利用者の状態を把握し 出来るだけ本人やご家族の要望に応じ必要時 主治医 専門医受診等の支援を行なっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき情報交換や協力関係を築いている。地域のコンビニ、商店は毎日利用している。他病院、郵便局、美容室等 西消防署の指導の元年2回以上の消防訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時今までのかかりつけ医に継続して診察して いただく事が可能であることを説明している施設 のかかりつけ医の訪問診療が週1回、認知症の 専門医が2週に1回定期的にあり必要事、近 隣に歯科、眼科があり診察を受ける事ができ る家族が希望する専門医療も受診できるように 支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診 することができる。母体法人の病院をかかりつ け医としている利用者が多い。母体法人の病 院と協力して、急変時には24時間体制で適 切に医療を受けることができる。また、精神 科医の訪問診療や専門医の受診などができる よう支援しており、利用者は安心して生活 を送ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションと医療連携をとって おり、毎日の申し送りに指示を得ている。看 護師が勤務しており、連絡 報告 相談が できる体制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、サマリーにより利用者の情報 提供を行っている。入院後は面会や病院、家 族からの情報提供を受け、経過を把握して 退院に備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と 支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入院時に重度化した場合の、対応について も 家族の思いを伺うと共にその決定が変 化可能であることを、お伝えしている。状 態に変化があった場合、あらかじめ、相 談させていただき、ご家族の意向に沿っ た対応が出来るよう努めている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が事業所での看取りを 希望しており、母体法人の病院や訪問 看護ステーションと協力体制が築かれ 看取りの体制を整えている。入居時に 事業所として対応できることを利用 者や家族に説明し意向を確認してい る。実際に数例の看取り経験があり、 医療関係者と職員、家族が話し合 いを重ね協力しながら支援してい る。今後も、利用者や家族が安心 して終末期を迎えられるよう、職 員間での研修を予定している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日赤の救急研修、消防署の研修を受けている者もいるがすべての職員が受けているわけではないがマニュアルもあり看護師 主治医の連絡体制で状態変化があれば指示を受け対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 西消防署の指導の元、防火訓練を年2回以上実施している。防火設備、避難経路の点検も定期的に行なっている。災害対策は具体的に作成して見えやすい所に掲示している。地域の方々に協力を求め、いざという時には支援がえられるように備えています。飲料水の備蓄もある。 (外部評価) 年2回以上、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。訓練ではマットレスを使用して2階の居室から利用者を避難させる方法を考え、誰もが見やすい位置にメガホンと災害対策手順などを掲示して、災害に対する対応と職員の意識を高めている。事業所の隣のコンビニへ災害時の協力を依頼しており、緊急時の対策を工夫している。	災害対策を職員間で話し合い対策を講じているが、災害は昼夜問わずいつ発生するか分からないため、備蓄品や避難ルートの確認など常に職員の意識を高めておくことが大切である。また、災害時に耐震性のある事業所を地域住民に避難場所として活用してもらうなど地域貢献も視野に入れながら、地域との相互の協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳やプライバシーに配慮した声かけに努めている。職員会議では いつも取り上げている議題で、申し送り時や直接 職員に指導も行なっている。個人情報の取り扱いとかんりについては 細心の注意を払っている。 (外部評価) 認知症により外出願望がある利用者には、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけして一緒に散歩をするなどの対応をするように取り組んでいる。また、排泄誘導などのケアは、声かけの仕方を工夫するなどし、利用者のその人らしさを尊重するような対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中で自己決定を大切にしている。言葉で表出されることが少ない利用者さんには 声かけして表情や仕草など 全体の感じからくみとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できるだけ本人のペースに合わせ、柔軟な対応を心がけている。生活リズムやその日の状態に合わせて対応するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に地域の理美容を利用しているが中には馴染みの美容室を希望され 送り迎えの支援をしている。更衣の際には自己決定を促しているが 意志表示できない方には声かけにて 職員が選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同法人の管理栄養士の立てた 献立を参考にしている。利用者に 食べたい物はないか 又嗜好等を調査して一諸に楽しんで、食事をとるよう心がけている。加熱する野菜の皮むき等は一諸におこない、園庭で収穫した野菜など一諸に下ごしらえを楽しんでいる。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が立てた献立を参考にし、利用者のリクエストや菜園で採れた野菜、旬の物を取り入れた食事を提供している。食事を楽しみにしている利用者も多く、野菜の皮むきなどできることを職員と一緒に手伝いながら、一品一品に手間隙かけ調理をしている。楽しく食事ができるよう、職員と利用者が同じ食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量、体重、排泄等の状況を把握している。状況におおじて、食事量や水分量を調整し必要量を摂取できるようにしている。利用者の好みを把握して支援ができている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所に誘導し状態に応じて、声かけ、見守り 介助を行なっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 状況に応じ、個別にトイレ誘導やオムツ交換を行なっている。尿意のない方でも立位の出来る方は日中リハビリパンツでトイレに座ってもらう習慣づけを行なっている可能な限り トイレで用を足す支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックして、利用者にあった排泄リズムを把握し、トイレ誘導等を行い排泄支援をしている。排泄方法は、介護計画に取り入れて支援を行なうなど、適切に排泄ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を促す為食材等を工夫している。乳製品は毎日摂取していただいている。排泄は出来るだけ座位で出来る様に支援している。チェック表がありー3日目で排便が無い場合主治医に相談して下剤を服用していただいている。下剤の調整もおこなっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自立の方は、入浴日、回数、時間に関わらず希望の時に入浴していただいている。一部介助の方も入りたいと、希望がある時は、支援している。全介助の方は週2回以上の入浴日を決めている。本人の体調不良時変更するときもある。福祉用具の購入を 検討している。	
			(外部評価) 利用者が入浴毎にお湯を入れ替え、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。冬には浴室の室温に気をつけるなど、快適な入浴ができるよう配慮している。重度化している利用者にはシャワー浴が中心となっているが、2人体制での介助時には湯船に浸かれるように支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけに工夫するなど、入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその時の状況により入眠時間は様々である。日中の休憩も自由にとられている。移動等に見守りや介助が必要な方には本人の希望を確認して援助している。意志表示が出来ない方は 疲労度など把握して休憩をとっていただいている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別記録に服薬量、用法、副作用などの説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。変更時個別記録、申し送り簿に記入して 情報の共有をしている。服薬時には1人1人確認をしカルテに確認者の印を押している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る方には、自主的にしていただいている。洗濯物干し、たたみ、カーテンの開け閉め、めだかの飼育等、レクには個別に気分転換を楽しめるように、常にコミュニケーションをとり支援に努めている。又嗜好品は居室にて召しあがっていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 重度の利用者さんが多いが1階のテラスは広く、園庭には家庭菜園もあり戸外で過ごせるようになっている。四季それぞれの草花眺めたり、体操をしたり、近隣の商店へ買物も利用され、同行する事もある。家族の協力を得頻回の外出される方もおられる。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、近所のスーパーへの買い物や事業所周辺を散歩するなど気分転換やリハビリになるよう支援している。母体法人や地域の行事に出かけたり、家族の協力を得て喫茶店でお茶を楽しむなど、利用者の意欲や生活の張りに繋げるような取組みをしながら、外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理されている方もおられる。施設では預かり金はなく、必要事、家族に連絡して、来ていただくようにしている。動けない方でも1000円程度の小銭を管理され職員に嗜好品を依頼したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話の依頼があれば個別に支援している。手紙のやり取りを、お手伝いすることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者に四季感を感じていただけるように、家庭菜園や、草花を植えている。切花にしてリビングや玄関先を飾るようにしている。1日3回、温度、湿度調整を行っており、カーテンで採光調節している。共同空間には物を置かない様に、努めている。</p> <p>(外部評価) 共有空間はリビング兼食堂となっており、大型の窓から明るい光が差し込み気持ちの良い空間となっている。掃出し窓から続くテラスからは、緑の木々や利用者と職員と一緒に作っている畑を眺めることができる。テラスで気候の良い時季にはお茶を楽しみながら四季を感じることができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共同空間の中には、それぞれが過ごす場所があり、テレビの前のソファで好きな番組を見たり、テーブルで新聞を読んだり、職員と話をしたりして、過ごされている。移動介助の必要な方には、確認して好きな場所を自己決定していただいている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所時使い慣れた家具等などの持ち込みをお願いしている。仏壇を設置している方もいる。本人が落ち着いて暮らせる様に物の配置は本人と家族様にお願いしている。</p> <p>(外部評価) 居室は広く一見殺風景に見えるが、家族に働きかけて使い慣れた馴染みものを持ち込むことができ、利用者にとって居心地の良い空間となっている。畳の部屋を希望する利用者には、臨機応変に居室のレイアウトを工夫をしながら利用者が安心して生活することができるよう対応している。兄弟で入居している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室には表札を掛け、トイレには大きく表示して分かりやすくしている。トイレ、廊下、浴室には持ちやすい位置に手摺を設置している。移動の邪魔にならないように歩行される場所には、物を置かないようにしている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102732
法人名	医療法人 博愛会
事業所名	グループホームしらさぎ
所在地	松山市会津町1-19
自己評価作成日	平成 25 年 9 月 6 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の希望、要望に耳を傾け、各々のペースを大切にしている。
また、母体である医療法人博愛会との連携を密にとり、利用者様の健康管理が十分に出来ており、安心して生活していただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所前の道路は高浜観光港に繋がる道路で比較的交通量が多い。一歩事業所の敷地に入ると、リビングの大型の掃き出し窓から続くテラスからは、木々の緑や利用者と共に育てている畑を眺めることができ、利用者にとって癒しの空間となっている。利用者は日中には解放的なリビングでジグソーパズルをするなど思い思いのを楽しんでおり、ゆったりとした時間が流れている。母体法人は医療法人で、利用者の心身の健康面は、いつでも医師や看護師と相談できる環境にあり、安心して生活を送ることができる体制が整っている。今年から管理者が交代し、「自分らしく」という理念のもと、利用者一人ひとりのペースを大切にしながら、心機一転、職員が一致団結しケアの質の向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームしらさぎ

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)
氏名 渡邊 光子

評価完了日 25 年 9 月 6 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 自分らしくを理念として掲げている。利用者が、その人らしく暮らせるよう、毎日の申し送りやカンファレンスで話し合いケアにつなげている。個別支援に力を入れており、職員の気付きがあれば、報告してもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 「自分らしく」生活を送れるように、利用者が望むことは何かということを職員は常に考えながら、ケアに取り組んでいる。日々の生活の中で気づいたことは申し送りノート等に記録し、職員間で共有するよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近くのコンビニやスーパーを毎日利用させていただいている。近隣の幼稚園との交流、夏祭りに、参加させていただいている。地域の一員として市民大清掃に参加して地域住民との交流を行なっている。回覧板を回していただいております。ゴミ置き場の清掃当番は責任をもっておこなっている。気持ちの良い挨拶を心がけている。</p> <p>(外部評価) 自治会の回覧板などで情報を得ながら、地域行事には積極的に参加するように取り組んだ結果、地域住民から必ず行事の開催時には事前に参加を呼びかけてもらう関係づくりができ、交流をしている。また、日常的な交流を大切にするため、近隣住民から梅のおすそ分けがあれば、加工してジャムを作りお返しをするなど工夫をしながら、継続した関係作りに努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議等で時折、認知症を理解していただけるように説明させていただいている。又近隣の方が車椅子より転落された時、うちの職員2名がかけつけ対応したこともあり、お役に立ちたいと思う。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議等で時折、認知症を理解していただけるように説明させていただいている。又近隣の方が車椅子より転落された時、うちの職員2名が かけつけ対応したこともあり、お役に立ちたいと思う。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は、老人連合会長、民生委員、市社協職員、市担当者、訪問看護ステーションの看護師等の参加を得て開催している。会議では、事業所の報告や意見交換をしている。参加者から出された意見は、必ず検討してサービス向上に繋がるよう努めている。会議への欠席者があり、家族の参加も少ないため、今後は、活発な意見交換が行える会議となるよう検討している。</p>	<p>運営推進会議への参加者が少なく、呼びかけても欠席するなど、地域との交流の深まりに制限があるように感じられる。今後は、行事や勉強会、災害対策などテーマを設け会議と一緒に開催する等、柔軟に家族や地域住民の参加を呼びかけ、多方面からの参加協力や意見が得られることを期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 2ヶ月に1度、運営推進会議を通して協力関係を築いている。事業所の考え方や運営、現場の事情等を報告し意見をいただいている。介護保険についても、分からないことは相談して、協力を得ている。</p> <p>(外部評価) 市担当者が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。介護保険に関することや困難事例など、運営や個別ケースについて不明な点があれば、市担当者に電話などで相談できる関係を築いている。地域包括支援センターとは現在関わりが減っているが、困難ケースなど状況に応じて連携を図り、関係強化に努めたいと考えている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の人権を守るという基本姿勢を忘れないように年1回の勉強会と毎日の申し送り時等に折にふれ全職員が共通認識をもてるように取り組んでいる。家族から、要望があつ場合も説明して、納得していただいている。</p> <p>(外部評価) 日々のケアや申し送り時に、管理者はどのような行為が身体拘束になるのか確認しながら職員に伝え、共有して身体拘束をしないケアに努めている。年1回身体拘束の勉強会の開催のほかに、職員が身体拘束の不快さを体験することで、利用者の気持ちを考える機会を設定して話し合うことを検討している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全身の皮膚の観察等は入浴時に行なっている。又毎日の申し送り時に内出血等はないか、言葉の暴力は無い か、接遇等は、職員に業務の中で、指導を行なっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 以前後見人制度を利用されていた方が入所されておられたので、職員は理解できている。新しい職員には資料を回覧しており、分からない部分は、いつでも指導できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 相談見学の折、概略を説明し、入所時あらためて、詳細を説明 理解 納得していただいた上 契約を取り 交わしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 来設時には 必ず利用者の状況報告や 家族の要望等意見を伺い いただいた情報を話合って改善に 取りくんでいる。又利用者本人にも 意見 要望等をお聴きしてサービスの質の 確保に努めている。	
			(外部評価) 事業所はいつでも家族の訪問を受け入れている。行事や訪問時に家族が意見を言いやすいよう、職員全員が話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、訪問が少ない家族に対しては、手紙や電話などで利用者の様子を伝え、家族から意見が言いやすいような関係づくりに努めている。	家族の訪問時や行事の時に意見を聞く機会はあるが、家族会等の設置はなく、積極的な意見交換の機会は少なく感じる。家族が集まりやすい行事を開催するなど家族と積極的な関わりを持てる機会を設け、意見や要望を言いやすい環境となることを望みたい。また、職員と家族とのより良い関係を築き、出された意見が利用者のサービス向上に反映されることを期待したい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員1人1人に直接意見を聞き、個人名をあげず経営者サイドに伝えている。常に職員の働く意欲向上を考えている。又定期的にミーティングを行ない、職員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めています。	
			(外部評価) 管理者は職員と一緒に介護現場で利用者のケアを行っており、職員がいつでも意見や要望が言いやすい環境となっている。また、個別ケアについて、母体法人の看護師にいつでも相談することができ、職員は安心して利用者のケアに取り組むことができる。定期的に実技指導者が来訪するなど研修も充実させ、職員の自信に繋がるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者は職員の勤務状況や実績を把握している。希望休は出来る限りとれるように他の職員と勤務交代をしたりしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修案内等の資料は回覧して出来るだけ参加の呼びかけをしている。サービスの質の同一化をはかる為接遇から介護にいたるまでの知識を身につけていくことを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 代表者より他のGHとの交流を進めるよう指示されている。GH連絡協議会において同業者とのネットワークづくりに努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人、家族より困っている事不安な事、要望など聞き取り本人様が入所後スムーズに施設での生活に馴染んでいただけるように努めています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 施設見学や面談の機会に本人、家族より 困っている事不安な事、要望など聞き取り 可能な限り対応している 出来ないことは その理由を 説明して 理解して いただいている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人の状況を確認し本人や家族の必要としている支援を見極めるように 努めている。GH入所を対象でない場合や入所困難な場合は 適切と思われる 他のサービスなどの情報提供を 行なっている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援しているという 目線ではなく、同じ場所で生活をする人という意識を持って関わっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡や面会時に状況報告をし 相談や意見交換を行なっている。利用者と家族の関係性にも 留意している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には 近況報告を行なうと共に 家族様の支援を得 墓参りや 法事など出かけられるように支援している。 又馴染みの美容室の 送り迎え等 職員が行なっている。 (外部評価) 利用者の馴染みの場所や関係等を家族から話を聞いたり、利用者の日常の会話から汲み取ったりしながら把握するよう努めている。開設当初から入居している利用者は重度化し、入居時の関係性を継続することが難しくなってきたが、家族の協力を得ながら関係が途切れないように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 1階と2階を互いに 行き来して交流のある利用者様もいる。余暇の時間に一諸に歌を 歌ったり話をしたり利用者さん同士かかわれるように間に入り支援している。不穏な徴候をいち早く 察知し トラブルにならないようにしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退去の際は 退去後の生活がスムーズに行なえるように情報提供を 行なっている。退去後も必要に応じ相談に のっている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 関わりの中で 表情や行動などから 思いや 意向の把握に 努めている。ご家族からも情報を頂き 知り得た情報を支援経過記録に書き込み 職員で 共有している。	
			(外部評価) 利用者の思いや希望について、日常会話の中から汲み取り把握するように努めている。言葉にできない思いは、入浴介助時や夜間など利用者と職員が1対1となる時に話をすることもあり、リラックスしている時間を活用し傾聴し、利用者本位のサービスが提供できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前のアセスメント及び入居後の生活の中で 折にふれ ご本人から 伺っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 1日の生活リズムで 出きる事 出来ないこと 心身状態等について 職員間で 情報交換 意見交換して把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ご本人家族より 要望を聞き 介護計画に反映させている。申し送り時等職員より状態等の変化の報告を受け 専門家と 話し合い その結果にもとずいて 作成している。	
			(外部評価) 利用者の現状に即したケアをしやすい具体的な計画になるように、介護支援専門員が利用者や家族の意向や職員の意見など確認しながら、医者や看護師の意見を参考にして介護計画を作成している。利用者一人ひとりの記録ファイルを利用し、職員が介護計画を把握できるように工夫することで、利用者に合った暮らしが送れるよう支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別経過記録に 日びの状態を記録している。状況変化やケアの変更時は 申し送り等にも 記入し職員間で 情報共有し 実践につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の利用者の状況を把握し 出来るだけ本人や家族の要望に応じ必要事 主治医 専門医受診等の支援をおこなっている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に参加していただき 情報交換や協力関係を築いている。地域のコンビニ 商店は 毎日利用している。他病院 郵便局 美容室等 西消防署の指導のもと年2回以上の防火訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所時、今までのかかりつけ医に継続して診察して いただく事が可能であることを説明。施設のかかりつけ 医の訪問診療が週1回認知症専門医が2週に1回定期 的にあり必要事、近隣に歯科、眼科があり診察を受け ることができる。家族が希望する専門医療も受診でき るように支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。母体法人の病院をかかりつけ医としてい る利用者が多い。母体法人の病院と協力して、急変時 には24時間体制で適切に医療を受けることができ る。また、精神科医の訪問診療や専門医の受診などが できるよう支援しており、利用者は安心して生活を送 ることができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 訪問看護ステーションと医療連携をとっており、毎日 の申し送りに指示を得ている。看護師が勤務してお り、報告、連絡、相談ができる体制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入所時には、サマリーにより利用者の情報提供を行 なっている。入院後は面会や病院、家族からの情報提 供を受け、経過を把握して、退院に備えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入院時に重度化した場合の対応についても 家族の思 いを伺うと共に、その決定が変更可能であることをお 伝えしている。状態に変化があつた場合、あらためて 相談させていただき、ご家族の意向に沿った対応がで きるように努めている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が事業所での看取りを希望してお り、母体法人の病院や訪問看護ステーションと協力体 制が築かれ看取りの体制を整えている。入居時に事業 所として対応できることを利用者や家族に説明し意向 を確認している。実際に数例の看取り経験があり、医 療関係者と職員、家族が話し合いを重ね協力しながら 支援している。今後も、利用者や家族が安心して終末 期を迎えられるよう、職員間での研修を予定してい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 日赤の救急研修、消防署の研修を受けている者もいるがすべての職員が受けているわけではないがマニュアルもあり、看護師 主治医の連絡体制で 状態に変化があれば指示を受け対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 西消防署の指示の元、防火訓練を年2回以上実施している。防火設備、避難経路の点検も定期的に行なっている。災害対策は具体的に作成して見えやすい所に掲示している。地域の方々に協力を求め、いざという時には支援が得られるようにしている。飲料水の備蓄もある。 (外部評価) 年2回以上、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。訓練ではマットレスを使用して2階の居室から利用者を避難させる方法を考え、誰もが見やすい位置にメガホンと災害対策手順などを掲示して、災害に対する対応と職員の意識を高めている。事業所の隣のコンビニへ災害時の協力を依頼しており、緊急時の対策を工夫している。	災害対策を職員間で話し合い対策を講じているが、災害は昼夜問わずいつ発生するか分からないため、備蓄品や避難ルートの確認など常に職員の意識を高めておくことが大切である。また、災害時に耐震性のある事業所を地域住民に避難場所として活用してもらうなど地域貢献も視野に入れながら、地域との相互の協力体制を築くことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳やプライバシーに配慮した声かけに努めている。職員会議では、いつもとりあげている議題で、申し送り時や、直接、職員に指導も行なっている。個人情報の取り扱いと管理については、細心の注意を払っている。 (外部評価) 認知症により外出願望がある利用者には、外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声かけして一緒に散歩をするなどの対応をするように取り組んでいる。また、排泄誘導などのケアは、声かけの仕方を工夫するなどし、利用者のその人らしさを尊重するような対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 生活の中で自己決定を大切にしている。言葉で表出されることが少ない利用者さんには 声かけして 表情や仕草など 全体の感じからくみとるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ本人のペースに合わせ、柔軟な対応を心がけている。。生活リズムやその日の状態に合わせて対応するように努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に地域の理美容を利用しているが、中には馴染みの美容室を希望される方もおられ支援している。更衣の際には自己決定を促しているが、意志表示できない方には 声かけして 職員が選んでいる。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 同法人の管理栄養士の立てた献立を参考にしている。利用者に食べたい物はないか、又嗜好調査をして、出来るだけ 一諸に 楽しんで食事を摂るように心がけている。加熱する野菜の皮むき等は一諸におこない、園庭で獲れた野菜など一諸に下ごしらえを楽しんでいる。	
			(外部評価) 法人の管理栄養士が立てた献立を参考に、利用者のリクエストや菜園で採れた野菜、旬の物を取り入れた食事を提供している。食事を楽しみにしている利用者も多く、野菜の皮むきなどできることを職員と一緒に手伝いながら、一品一品に手間隙かけ調理をしている。楽しく食事ができるよう、職員と利用者が同じ食卓を囲み、和やかな雰囲気ですべてしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量、体重、排泄等の状況を把握している。状況に応じ、食事量や水分量を調整し必要量を摂取できるようにしている。利用者の好みを把握して 支援ができています。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、洗面所に誘導して状態に応じ、声かけ、見守り、介助を行なっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 状況に応じ個別にトイレ誘導やオムツ交換を行なっている。尿意のない方でも 立位のできる方は日中リハビリパンツで トイレに座ってもらう習慣つけをおこなっている。可能な限り トイレでようを足す支援を心がけている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの排泄パターンをチェックして、利用者にあった排泄リズムを把握し、トイレ誘導等を行い排泄支援をしている。排泄方法は、介護計画に取り入れて支援を行なうなど、適切に排泄ができるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 自然排便を促す為食材等を工夫している。乳製品は毎日摂取していただいている。排泄は出来るだけ 座位で出来るように支援している。チェック表があり-3日目で排便がない場合、主治医に相談して 下剤を服用していただいている。下剤の調整も おこなっている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 自立の方は、入浴日、回数、時間に関わらず希望時に入浴して抱いている。一部介助の方にも入りたいと希望がある時には支援している。全介助の方は 週2回以上入浴日を決めている。本人の体調不良時変更するときもある。福祉用具の購入を検討している。	
			(外部評価) 利用者が入浴毎にお湯を入れ替え、気持ちの良い入浴ができるよう支援している。冬には浴室の室温に気をつけるなど、快適な入浴ができるよう配慮している。重度化している利用者にはシャワー浴が中心となっているが、2人体制での介助時には湯船に浸かれるように支援している。入浴が苦手な利用者には、声かけに工夫するなど、入浴したい気持ちになるように見守りながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 生活習慣やその時の状況により入眠時間は様々である。日中の休憩も自由にとられている。移動等に見守りや介助が必要な方には本人の希望を確認している。意思疎通が出来ない方には 疲労度などを把握して休憩をとっていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別記録に服薬量、用法、副作用などの説明書をファイルし、いつでも確認できるようにしている。変更時、個別記録、申し送り簿に記入して情報を共有している。服薬時は一人一人確認して、カルテに確認者の印をおしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 出来る方は 自主的にしていただいている。洗濯物干したたみ、カーテンの開け閉め、めだかの飼育等、レクには個別に気分転換を楽しめるように、常にコミュニケーションをとり 支援に努めている。又嗜好品は居室にて召し上がっていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 重度の利用者さんが多いが1階のテラスは広く、園庭には家庭菜園もあり戸外で過ごせるようになっていいる。四季それぞれの草花を眺めたり、体操をしたり、近隣の商店に買物も利用され職員が同行することもある。家族の協力を得 頻回に外出される方もおられる。	
			(外部評価) 利用者の希望に応じて、近所のスーパーへの買い物や事業所周辺を散歩するなど気分転換やリハビリになるよう支援している。母体法人や地域の行事に出かけたり、家族の協力を得て喫茶店でお茶を楽しむなど、利用者の意欲や生活の張りに繋げるような取組みをしながら、外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理されている方もおられる。施設では 預かり金はなく 必要事、家族に連絡して、来ていただくようにしている。動けない方でも 1000円程度の小銭を管理され 職員に嗜好品を依頼したりしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話見守りや、依頼があれば支援を行なっている。手紙のやりとりを お手伝いすることもある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 利用者に四季感を感じていただけるように、家庭菜園や草花を植えている。切花にしてリビングや玄関先を飾る様にしている。1日3回 温度 湿度調整をおこなっており、カーテンで採光調整をしている。共同空間には物を置かない様に、努めている。</p> <p>(外部評価) 共有空間はリビング兼食堂となっており、大型の窓から明るい光が差し込み気持ちの良い空間となっている。掃出し窓から続くテラスからは、緑の木々や利用者と職員と一緒に作っている畑を眺めることができる。テラスで気候の良い時季にはお茶を楽しみながら四季を感じる事ができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共同空間の中には、それぞれ過ごす場所があり、テレビ前のソファで好きな番組を見たりテーブルで新聞を読んだり 職員と話したりして 過ごされている。移動介助の必要な方には、確認して好きな場所を自己決定していただいている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 入所時使い慣れた家具等などの持ち込みをお願いしている。本人が落ち着いて暮らせるように 物の配置は本人と家族様にお願いしている。</p> <p>(外部評価) 居室は広く一見殺風景に見えるが、家族に働きかけて使い慣れた馴染みものを持ち込むことができ、利用者にとって居心地の良い空間となっている。畳の部屋を希望する利用者には、臨機応変に居室のレイアウトを工夫をしながら利用者が安心して生活することができるよう対応している。兄弟で入居している利用者もいる。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 居室には表札を掛け トイレは大きく表示して分かりやすいようにしている。トイレ、廊下、浴室には 持ちやすい位置に手摺を 設置している。移動の邪魔にならないように歩行される場所には物を置かないようにしている。</p>	